

テーマ

1

制限目安時間 20分

正解数 (合格ライン3問) / 5問

I-1 初期ギリシャ哲学思想

哲学の誕生

古代ギリシャを舞台に、「万物の根本原理とは何か？」を探ることから、永遠の思索の旅が始まった。



タレス
Thales
前 585 年頃

記録に残る最古の哲学者。ミレトス派の祖。天文学、測量術にも通じていて、数学の「タレスの定理」でも知られる。

ミレトス派の物活論

哲学が誕生したのは、紀元前 6 世紀の古代ギリシャであると言われています。当時ギリシャは、地中海貿易によって莫大な富を得て、豊かになった市民たちは「宇宙や自然の根本原理は何か？」を探る、知的な活動を始めました。

そこに登場したのが、最初の哲学者と言われる**タレス**でした。彼は、神話的な説明をやめて、万物の根源は**水**であると考え、すべてのものは、突きつめていけば水からできていると説きました。しかし、タレスの弟子とされる**アナクシマンドロス**は、その説に「水がアルケーなら、火や土はどう説明するのか？」と、疑問を投げかけたのです。そして、アルケーは、万物がそこから生まれ、やがて消滅してそこに還る**無限なもの**でなければならないと考えました。その説を受け継いだ弟子の**アナクシメネス**は、万物のアルケーを**ト・アペイロン**の条件を満たしながら、存在を実感できる物質ではないかと考え、**空気**であると主張しました。

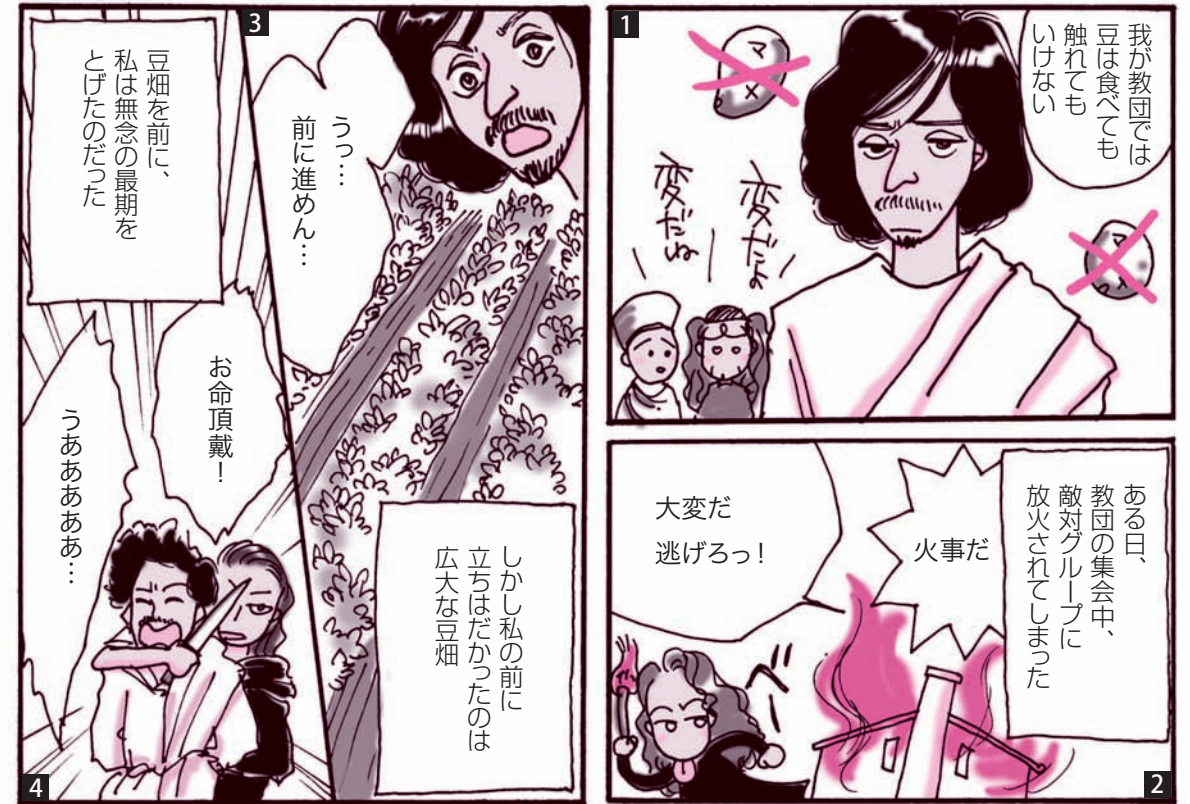
タレスから続く、これら 3 人の哲学者は、ミレトスに住んでいたことから、**ミレトス派**と呼ばれています。

ピュタゴラスとヘラクレイトス

すべての物質に生命が宿ると考えた、ミレトス派の**物活論**に異を唱えたのが、**ピュタゴラス**教という宗教の創始者でもあった、大数学者の**ピュタゴラス**。彼はこの世のすべては、星の運行、月の満ち欠け、音階など、数の比例関係によって成り立っていることから、数こそがアルケーであると論じたのです。ピュタゴラス派は、こうした秩序だった世界に同化し、魂を浄化することで、**輪廻転生**から魂を救い出すことをめざしました。

その後にあられた**ヘラクレイトス**は、すべての根源を象徴的に**火**であると考えました。彼は、**世界の秩序**を、常に決まっただけ燃え、同時に決まっただけ消える火や、絶えず流れてきては、流れ去っていく川にたとえ、対立する力がせめぎあうことで生じる絶え間のない変化の中にこそ、普遍的秩序があると説きました。**万物流転**という言葉は、このヘラクレイトスの思想から生まれたのです。

★ピュタゴラス教団では豆は禁止!



デルフォイのアテナの神域

雑学豆知識 ●世界に哲学ブームを巻き起こした『ソフィーの世界』

哲学とファンタジーを融合させた物語『ソフィーの世界』は、世界各国で翻訳され、2300 万部を売り上げる、大ベストセラーとなった。ある日、14 歳の少女ソフィーが、「あなたはだれ？」と一行だけ書かれた手紙を受け取ったことからストーリーが始まり、古代ギリシャから近代にいたるまでの哲学者たちが登場。日本でも 95 年に出版され、哲学ブームに火をつけた。

問題 1 次の哲学者は、万物の根源は何であると考えたでしょう？ あてはまるものを線で結んでください。

- | | | |
|-------------|---|--------------|
| ① タレス | ● | ● A 無限なものである |
| ② アナクシマンドロス | ● | ● B 火である |
| ③ アナクシメネス | ● | ● C 水である |
| ④ ピュタゴラス | ● | ● D 空気である |
| ⑤ ヘラクレイトス | ● | ● E 数である |